

三井 ソイリーン®

土壌消毒剤

クロルピクリン・D-Dくん蒸剤

医薬用外劇物

消防法：危険物第4類 第2石油類

ソイリーンは(株)エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です

1回の処理で
センチュウ類・土壌病害・
一年草雑草を同時防除

バランスよく配合したクロルピクリンと
D-Dが土壌中でガス化し、隅々まで拡散
浸透し、効果を示します。

刺激臭が少なく、
使いやすい

クロルピクリンの刺激臭が少なく、
露地だけでなく、施設内でも使えます。

裏面の「安全使用上の注意」(4)防護
マスクなどの着用、(10)施設内で使
用する場合の注意、などをよく読んで
正しくお使いください。

パセリの立枯病、
ネグサレセンチュウ、
ネコブセンチュウに
拡大登録!



雑草防除効果



ソイリーン 30L/10a



A剤 20L/10a



無処理区

※(株)エス・ディー・エス バイオテック社内圃場試験(平成12年)

作業手順

耕起
整地

薬剤
注入

被覆
(消毒)

被覆
除去

ガス抜き
作業

施肥
畦立て

(畦
マルチ)

定植
播種

有効成分:クロルピクリン...41.5%[PRTR:1種285]
1,3-ジクロロプロペン(D-D)...54.5%[PRTR:1種179]
包装:15L(缶)×1

上手な使い方 1 圃場の準備 2 注入

畑に残っている莖葉や
根など(特に病気や線虫
におかされたものは、で
きる限り取り除いてくだ
さい。
畑はなるべく深く耕し、整
地してください。



注入は30cm間
隔のチドリ状で、
深さ約15cmに
所定量を注入し
ます。



3 被覆(消毒)

注入後はポリエチレンシート(厚さ0.03mm以上)などで
地表面を必ず被覆してください。
作業に際しては、マスク・メガネ
などの保護具を着けてください。
10日~15日程度
そのまま放置します。
地温が低い場合は期間を
さらに長くしてください。



4 被覆(除去) 5 移植(播種)

作付けの1~2日前に畑を耕起して
ガス抜きを行ってください。地温が
低い場合は作付けまでの期間をさ
らに長くしてください。



(1)ガスが抜けたあとで植付けますが、念のため
植付けの前に畑の2~3カ所を掘って、薬剤の
臭いがしないことを確認してください。
(2)もし、臭いが残っている
場合は、さらに放置
してから植付け
てください。



6 消毒後の注意

ソイリーンで消毒した畑には、他からセンチュウ・病原
菌などを持込まないようにすることが大切です。
(1)汚染土で使った農機具などはよく洗い、
病原菌をつけたまま畑に持込まない
ようにしてください。
(2)降雨などで病原菌が他から流れこまない
ように注意し、また、畑の排水をよくしてください。
(3)苗(種)は、無病で健全なものを移植(播種)してください。



適用病害虫・雑草

（2020年2月12日現在）

作物名	適用病害虫名	使用量	適用雑草 および使用量
にんじん	しみ腐病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	一年生雑草 20~30ℓ/10a (1穴あたり 2~3mℓ)
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
すいか	つる割病 黒点根腐病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
メロン	えそ斑点病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
だいこん	バーティシウム黒点病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
はくさい	黄化病 根くびれ病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
キャベツ	苗立枯病(リソクトニア菌)	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
なす	青枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
トマト ミニトマト	青枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	萎凋病	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
ほうれんそう	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
	つる割病 ホモシス根腐病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
ピーマン とうがらし類	青枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
かぼちゃ	立枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	根茎腐敗病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
しょうが	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
	白絹病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
ねぎ	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
みょうが(花穂) みょうが(莖葉) にがら	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
	根腐病 褐色腐敗病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
オクラ	立枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
パセリ	根腐病 褐色腐敗病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
豆類 (未成熟、ただし、さやいんげん、 未成熟そらまめ、さやえんどう、 実えんどうを除く)	根腐病 褐色腐敗病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
さやいんげん 未成熟そらまめ さやえんどう 実えんどう	根腐病 褐色腐敗病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
やまのいも	根腐病 褐色腐敗病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
ごぼう	根腐病 褐色腐敗病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
さといも	根腐病 褐色腐敗病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
こんにやく	根腐病 褐色腐敗病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
ぼれいしょ	根腐病 褐色腐敗病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
いちご	萎黄病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	炭疽病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
かんしょ	根腐病 立枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
きく	半身萎凋病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
ストック	萎凋病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
チューリップ	球根腐敗病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
カーネーション	萎凋細菌病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
トルコギキョウ	根腐病 立枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
花き類・観葉植物 ストック、チューリップ、きく、 カーネーション、トルコギキョウを除く)	萎黄病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
セルリー	萎黄病	30ℓ/10a (1穴あたり3mℓ)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
こまつな レタス、かぶ	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3mℓ)	
	ネコブセンチュウ 立枯病	(畦内土壌注入) 1穴あたり2~3mℓ	

＜使用方法＞

●使用時期：作付けの10～15日前まで【注：たばこは、作付の30日前まで。】

●使用回数：1回 ●D-Dを含む農薬の総使用回数：1回

●クロルピリクソンを含む農薬の総使用回数：

- 1回：にんじん、だいこん、はくさい、かぼちゃ、レタス、かぶ、ばれいしょ、かんしょ、さといも、やまのいも、こんにやく、オクラ、タバコ、パセリ、豆類(未成熟、ただし、さやいんげん、未成熟そらまめ、さやえんどう、実えんどうを除く)
 - 2回以内(床土1回以内)：ごぼう、ほうれんそう、しょうが、葉しよが、なす、みょうが(花穂)、みょうが(莖葉)、にがら、こまつな、さやえんどう、実えんどう
 - 2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)：メロン、キャベツ、未成熟そらまめ
 - 3回以内(床土1回以内、圃場2回以内)：すいか、トマト、ミニトマト、きゅうり、ピーマン、とうがらし類、いちご、ねぎ、セルリー、花き類・観葉植物、さやいんげん
- 使用方法：耕起整地後、30cm間隔のチドリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。注：たばこは、(畦内土壌注入)畦立後、畦中央の頂上から、30cm間隔で、35cmの深さに所定量を注入し、直ちに注入口をふさぎ、**ポリエチレン、ビニール等で被覆する。**
- 使用方法(適用雑草名：一年生雑草)：耕起整地後、30cm間隔のチドリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、**ポリエチレン、ビニール等で被覆する。**

■使用上の注意

- (1)生育中の作物には薬害を生じるおそれがあるので、使用しないでください。
- (2)温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともあるので、なるべく地温が7℃以上の時使用してください。
- (3)本剤の処理に当たっては、ガスが土中で十分に拡散するように耕起、砕土を十分行い、丁寧に整地してから処理してください。但し、耕起直後ではガスが抜けやすいので、耕起後しばらくたって土壌がおちついてから処理することをおすすめします。また、土中でのガスの拡散は土の湿り気のある時、すなわち土を握って放すと割れ目ができる程度の時に注入するのが最適です。注入後は直ちに穴をふさぎ、地表面をポリエチレン、ビニール等で被覆してください。
- (4)処理は原則として作付の10～15日前に行い、作付の1～2日前に畑を耕起して十分にガス抜きをしてください。ガス抜きが不十分な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意してください。うり類は薬害を生じやすい傾向にあるので、ガス抜きを特に念入りに行ってください。
- (5)処理後、大雨があったり、土壌が重粘土質で通気の悪い所では、ガス抜きを特に念入りに行ってください。
- (6)処理後、未消毒の土がなるべく混入しないよう注意してください。
- (7)ミツバチの巣箱周辺での使用は避けください。
- (8)消石灰などのアルカリ性肥料の施用直後に本剤を処理すると作物に有害な物質を作り、薬害の発生をおそれるので、このような肥料はガス抜き後に施用するか、または本剤処理の10日以上前に施用してください。
- (9)他剤と混用しないでください。特にカーバム剤及びカーバムナトリウム剤とは化学反応により、発熱し危険であるので、カーバム剤及びカーバムナトリウム剤使用後の散布器具等はよく洗浄してから用いてください。
- (10)金属腐食性があるので、使用後の注入器具その他は灯油でよく洗ってください。
- (11)薬液の入っている製品缶に水が混入すると缶が腐食するおそれがあるので、製品缶には水を入れないでください。
- (12)土壌消毒機の薬液タンク(ポリタンク等)に移した薬液は水分を含んでいる可能性があり、製品缶を腐食するおそれがあるので、残存薬液は製品缶には戻さず、使い切ってください。
- (13)処理後の放置期間と効果、薬害との関係は、土壌の種類、腐植土の多少、温度、土壌水分、作物の種類によって様々ではないので、本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意してください。特に、初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- (14)適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

■安全使用上の注意

- (1)医薬用外劇物、取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の担当を受けさせてください。本剤は窒息性有毒ガスを発生するので、揮散したガスを吸い込まないよう注意してください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、通風の良好な場所で顔を横に向け、体を暖め、頭部を冷やししながら安静にし、直ちに医師の担当を受けてください。場合によっては、酸素吸入又は人工呼吸を行い、強心剤等を投与してください。
- (2)本剤は催涙性の刺激を有し、眼、のど、鼻を刺激するので注意してください。ガスが眼に入りひどく痛む時は、多量の水でよく洗い速やかに眼科医の担当を受けてください。
- (3)本剤は皮膚に対して強い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- (4)本剤の投薬作業の際は、吸引缶(活性炭入り)付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用してください。ガス抜き作業の際も同様の防護マスク、保護眼鏡を着用してください。作業の際はガスを吸い込まないよう風向き等を十分考慮してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗顔・うがいをするごとに衣服を交換してください。
- (5)本剤が衣服等に付いた場合には、脱衣して他のものとは分けてよく洗濯し、本剤の臭気が抜けるまで身に付けしないでください。
- (6)かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意してください。
- (7)作業中及びびくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分に注意してください。
- (8)揮散ガスによる危害を防止するため、本剤の処理は朝方の気温の低い時間帯に行ってください。処理後は直ちに、必ずビニール等で被覆を行ってください。
- (9)住宅、畜舎、鶏舎周辺での使用に当たっては、以下の事項に留意し、ガスによる危害の発生防止に十分配慮してください。①高温期の処理を避け、気温の低い季節に処理することをおすすめします。②住宅、畜舎、鶏舎が風下になる場合、処理を控えてください。③被覆資材は厚めの0.03mm以上を使用してください。④風の強さや向きが変わり、危害を及ぼすおそれがある場合は、ガス抜き作業を中断してください。
- (10)本剤をビニールハウス等の施設内で使用する場合、出入口、天窓、側窓を開け通気をよくして作業を行ってください。作業後は直ちに密閉し、臭気が残っている期間にはハウス内へ入らないでください。くん蒸後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。
- (11)本剤を使用する場合、注入処理と同時に被覆する機能を備えた土壌消毒機を使用することをおすすめします。
- (12)本剤は水産動植物(魚類、甲殻類、藻類)に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼、海域及び養殖池に本剤が飛散、流入するおそれのある場所では使用しないでください。
- (13)散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- (14)危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意してください。
- (15)本剤は皮膚に対し強い刺激性があります。
- (16)火気をさげ、直射日光があたらない鍵のかかる低温な場所に密栓して保管してください。

ソイリーン®の空缶処理のお願い

ソイリーンの空缶処理は次の手順できちんとして行ってください。

- (1)口栓ははずし、逆さにして薬液を土中にしみ込ませ、缶を空にしてください。(1日～2日で缶の残液はなくなり、ほぼ1ヶ月で臭気は抜けます)
- (2)缶の底面に3～4ヶ所の孔を開ければ、より早く臭気はなくなります。
- (3)周囲に影響がない場所に、缶を横倒しにして、置いてください。この時風で転がらないように、2～3缶を図のようにロープ等で束ねます。

※完全に臭気なくなったことを確かめてから、処分してください。

※本製品は農業用土壌消毒剤であり、製品ラベルの記載内容以外には使用しないでください。本印刷物は2020年2月現在の資料、情報、データ等に基づいて作成していますが、記載データ及び評価はあくまでも測定値の代表例であり、全ての事例に当てはまるものではありません。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記載しましょう。